

## コロナ渦における効果的新入社員研修とは③

シリーズ第3弾です。第1回は“主体行動の修得”、第2回は“目的把握”でした。

第3回は“**納期厳守**”です。

仕事には必ず納期があります。その納期を1秒でも遅ければ、その仕事をしたことにはなりません。対お客様の場合、信用失墜にもつながります。納期厳守は当たり前中の当たり前です。

しかし、現実100%納期厳守ができていますでしょうか。例えば、会議の予定時間を超過してしまうのも、納期違反の一つです。

一般的に新入社員と既存社員は時間の感覚が異なっています（新入社員の方がゆっくりしている）。そのため、納期に遅れがちです。また、学生時代は納期厳守を厳しく求められる場面が、ビジネスより少ないのではないのでしょうか。スマホやSNSが普及した今、待ち合わせ時間に多少遅れても、すぐに連絡がつくので、尚更でしょう。そのため、意外と時間厳守の習慣がついていないまま、ビジネスの世界に入ってきてしまう新入社員が多くいます。

そのため導入研修時点で、納期厳守の習慣をつけてもらう必要があります。また“連絡すれば遅れても大丈夫”という考え方も持たないようにすることも重要です。

納期厳守の習慣付けを行うために、まずはその重要性を理解してもらうことです。“遅れてもよい”と考えている人はほとんどいないと思いますが、“絶対に遅れてはいけない”とまでは思っていない人が、実は少なくありません。それが、前述の“連絡すれば遅れても大丈夫”との認識も生みます。

ビジネスでは納期を守れない人は信用されない、大きなビジネスチャンスを逃す、トラブルが発生する等、遵守必要性を理解してもらうことが必須です。

それ以外のポイント例は以下の通りです。

導入研修での納期厳守習慣付け例
研修中のグループワーク等で、まず時間厳守を徹底する
最初に時間配分を考える習慣をつける（PDCAを廻してもらう）
納期の遅れた場合、何故そうなったのか、どうすれば厳守できるかを考えてもらう
タイムキーパーを機能させる
納期厳守を意識するあまり、質を下げた仕事とさせない
万が一、遅れる場合は、遅れそうになったことがわかった段階で報告
先にできることは、先に行う習慣をつける

弊社新入社員研修は、単にマナー等を修得するだけでなく、納期厳守習慣・主体行動・目的把握力・を修得していただきます。

ご興味・ご関心のある方は下記までご連絡下さい。



> お問い合わせはこちら